

動物の診察室から

○ 73 ○

東北地方を襲った地震から1カ月がたち、メディアでも被災地の動物たちのことが取り上げられるようになりました。

被災地には、飼い主と

私たちは被災地に残された動物たちに、マイクロチップを入れてあげたなら、と思います。新潟市にも被災地から数匹の動物が来ていますが、マ

に遭い死骸で収容された動物にもマイクロチップが入っているか調べられるようになっていきます。そして、市内のほとんど動物病院でマイクロチップを入れることができ、当然リーダーがおりてあります。新潟市以外でも、徐々にマイクロチップのインフラがそろってきています。

もし、私たちの町で大きな災害が起こった場合には、今回の震災と同じく、たくさんの飼い主の分からない動物が出る可能性があります。ペットたちの身元が確認できるようにしておくことは大事なことです。もしもの時、マイクロチップさえ入っていれば、ペットは飼い主の元へ帰ることができるのです。

新潟市で開設されている避難所では、ペットの

スペースを決めて、動物たちは飼い主のそばで生活ができるようになっています。これは、事前に行行政内で検討が行われていたために実現できているこ



はぐれた命

身元情報チップ準備を

はぐれてしまった動物や、避難する際に連れて行くことができずに残された動物たちがいます。その動物たちはどうなってしまうのでしょうか。

マイクロチップは入っていないのです。

現地では、多くの動物愛護ボランティア団体が動物の保護を行っていています。そして、動物を被災地以外に連れて行って保護している場合もあります。その中には飼い主が分からない動物もいます。インターネット上で、保護した動物の情報が見られるようになっていま

マイクロチップは、動物の頸部皮下に入れる長さ数ミリの棒状のチップで、そこには15桁の番号が記録されています。そして、その番号の読み取り機(リーダー)を頸部に近づけると、番号を知ることができ、飼い主の情報に分かるのです。

すが、どの程度の動物の身元が分かるか見当はつきません。

新潟市の場合には、保健所はもちろん、各区の警察署にもリーダーがおりてあります。事故など



震災地から新潟へ保護されてきた犬

ペットの身元が確認できるマイクロチップも、何かが起こる前にできる大事なことです。中越、中越沖と2度の大きな地震を経験した私たちはいろいろな教訓を与えられました。そして、それ以上の被害を出している東日本大震災では、もっと多くの教訓が出てくるでしょう。その一つ一つを、私たち日本人は考えていくことが大切だと思います。

草村 正人 (獣医師・新潟市)